

# 民報あばしり

NO.848  
2011.12.25  
発行所  
日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八四三  
四三・四四・四五  
四六・四七

あまりにも拙速な決定

## 南小・三小・網小・一中の給食が親子方式に

12月19日定例市議会にて学校給食の親子方式の実施設計費について大綱質疑を行いました。

その後、総務・文教委員会に付託され審議が行われました。

方式には賛成だ」と表明し、他の5人の議員も、学校給食の親子方式に賛成し原案を可決しました。

### 保護者への説明を丁寧!

飯田敏勝議員は、子どもたちの食育は市の食育推進計画でも自校方式のもとでの健康づくりの一環として位置付けられており、それを担う学校給食の変更は、市民的議論が必要である。国の第三次補正に合わせるのが有利との提案は、あまりにも拙速で財政優先である。健康づくりを標榜し、食育計画に責任を持つ市長の見解を求めた。

「仕組みの変更は市民的議論が必要だ。一番やるべきは父母への説明は決まったも同然の案内であり不誠実だ。すでに親子給食が実施しているところでは問題がでていないというが、南小はこれまでの2倍の食数をつくるもので、調理員の配置や配食時間、アレルギー対応などに不安がある。現場の調理員の声を反映していないなど、自校給食で培われて来た様々な良い点が置き去りにされ、不安いっぱい計画である。

この間、教育委員会が給食の親子方式への転換方針を示唆していましたが、最終決定したのは8月でした。6月の議会では方針はあるが、具体的な概要が決まり次第議会に示すということでした。しかし、関係者への説明は、9月下旬から学校やPTA役員、10月になって父母や保護者へ示めす状況です。

### 請願不採択を強行!

12月議会に新婦人から「親子給食の再検討を求め」請願を19日の総務・文教委員会で審議がなされ、飯田議員は「この間の教育委員会の行ってきたことは、極めて説明不足、資料も出さないなど問題が多い。請願は採択を」と主張しました。しかし、山田庫司議員は、「補正予算が可決されたので、議会として請願を採択、継続では整合性がとれない」と不採択を主張。小田部委員長も同様の立場をとり、請願・陳情について「全会一致を旨とする」との原則を破り、請願不採択を強行しました。



水谷市長は「子どもたちの安心、安全の確保が求められているとき、児童、生徒数の減少や市の財政状況などを総合的に判断し、最良の判断

学校給食はいかにあるべきかの基本的視点での議論を優先せず、財政的に有利のうちという視点が優先し、その財政計画も自校方式での試算も出さず、概算も示さず具体性を欠くもので、市の議論が不十分などを理由に反対しました。

山田庫司議員(民主市民ネット)は「仕組み変更での学校給食は如何にあるべきかの議論は第一だが、財政確保が有利のうちにするべきと考えるので親子

## 流水

今わが国の宇宙開発は日本国憲法の平和理念に基づいて1969年の国会決議「宇宙開発利用は非軍事に限定する」との基本方針で進められてきました。しかし最近では小惑星探査機「はやぶさ」などの活躍で、そのすばらしい成果を受けて米・欧州が小惑星探査計画を打ち出すなど、わが国の科学技術が世界から追われるフロントランナーの立場にさえなってきました。2014年に打ち上げをめざしている「はやぶさII」には大きな評価と財政支援が必要でしょう。しかし政府与党はなぜか予算の圧縮を要求しています。一方、防衛費は188億円をかけた新たに打ち上げられる2機の通信衛星を同省保有とする計画を進めていることが明らかになりました。▼計画とおりに進めば日本が公式に保有する初の軍事衛星となります。この自衛隊の衛星通信の利用可能エリアは北太平洋、インド洋周辺。利用目的は、海外派兵先で現地状況の迅速な把握、指揮命令、弾道ミサイル防衛などです。▼防衛省は防衛大綱の決めた「動的防衛力」を踏まえるとしていますが、この構想は自衛隊を必要に応じてどこにでも緊急展開できる体制にし海外での戦争に備えるものです。これらの突破口に別の軍事衛星を導入するなど宇宙技術を軍事に活用する度合いがますます深まりそうです。▼日本は探査機「はやぶさ」や、陸域観測衛星「だいち」の災害監視などに民生分野での技術開発で国際的に評価を得てきました。今後でも平和利用に徹していくべきではありませんか(K)

先週の記事でみだしの第4会とあるのは、第4回です。また、先週の訂正記事でH12年はH14年の誤りでした。

訂正